



訓練 この日は、交通事故で、運転席に閉じ込められた人を救出する訓練を救急隊、救助隊合同で行いました。



車両、装備品の点検 毎日、車両や装備品、資機材の点検を行っています。



▼AED
(自動体外式除細動器)
致命的な不整脈をコンピュータが判断し、心臓のリズムを正常な状態に戻すため心臓に電気ショックを与えます。



▼呼吸管理セット
呼吸困難や呼吸停止の傷病者の呼吸管理を行う器具です。

〈救急出動件数・種別〉

1 救急出動件数・搬送人員

平成17年の管内における救急出動件数は1577件、搬送人員1550人で、平成16年と比較すると救急出動件数49件、搬送人員46人の増加となっております。

2 事故種別

救急出動件数を事故種別ごとにみると、第1位が急病713件で全体の45%を占めています。第2位は、その他(転院)

442件(28%)・第3位が一般負傷192件(12%)・第4位が交通事故173件(11%)の順になっています。

3 地域別出動件数

地域別にみると、高梁地域が1127件で全体の71.5%を占めています。次いで、成羽地域191件(12.1%)・川上地域103件(6.5%)・備中地域86件(5.5%)・有漢地域61件(3.9%)・岡山自動車道5件(0.3%)・その他の地域(応援協定に基づく地

域)4件(0.2%)の順になっています。

平成17年 地域別の救急出動状況

区分	種別	出動件数	搬送件数	搬送人員
高梁	地域	1,127	1,094	1,118
有漢	地域	61	57	59
成羽	地域	191	184	185
川上	地域	103	96	98
備中	地域	86	83	84
岡山	自動車道	5	4	4
その他	地域	4	2	2
合計		1,577	1,520	1,550

4 ドクターヘリの傷病者搬送件数

ドクターヘリとは、救急医療用の医療機器等を装備したヘリコプターで、救急医療の専門医や看護師等が搭乗して救急現場に向かい、現場から医療機関に搬送するまでの間、患者に救急医療を行うものです。

川崎医科大学附属病院高度救命救急センター(倉敷市)が県の要請を受けてドクターヘリ導入事業を実施しています。同救命救急センターから高梁市までは約10分で到着します。



救命講習 申し込みのあったグループや団体に対し、署内や出向いての救命講習会を行います。



昼食

地域別 ドクターヘリ傷病者搬送件数

(各年とも1月～12月末)

年別	合計	高梁地域	有漢地域	成羽地域	川上地域	備中地域	その他
平成15年	63	29	2	10	2	4	16
平成16年	60	29	5	12	4	5	5
平成17年	60	24	7	14	12	3	—
合計	183	82	14	36	18	12	21

市の傷病者の搬送は毎年60件ほどあり、生命に危険が切迫している患者や、長時間搬送が予想される重症患者などの生命を救っています。
ドクターヘリの要請は、医師や救急隊員等の判断となるほか、119番通報時に広範囲の熱傷や手足の切断などで、明らかに重症と分かる場合には、消防署から救急車で現場へ向かうと同時にドクターヘリの出動を要請します。

心臓が止まってしまおうような重篤な状態の時などには、応急手当はもちろん、救急車をすぐに呼ぶことや、救急救命士による除細動（電気ショック）、救命救急センター等による高度な医療が、スムーズな連携プレーで行われることが救命には必要です。このことを救命の連鎖といえます。この連鎖が一つでも欠けたら命を助けることはできません。



救命の連鎖
救急隊員だけでは救えない生命



早い医療処置

医療機関における医療処置



早い救急処置

救急救命士等の行う高度な救急処置



早い応急手当

救急車到着前の早い心肺蘇生と早い除細動



早い通報

落ち着いて、はっきりと119番通報する